福島県立いわき翠の杜高等学校

進路だより

—自己実現をめざして—

発行
福島県立
いわき翠の杜高等学校

編集者
進路指導部

これから進路選択を迎える皆さんへ

卒業生合格体験記

進路活動について

22A
小野　陽華
(株)フィアビラジャパン内定

私は二年生のときに、先輩たちが進路に向けて活動している姿を見て、進路について意識しはじめました。

三年生になり、進学か就職を選ぶ時期に考えを整理してみました。進学は経済的な理由もあるけれど、自分の学びたいと思うものを明確にするのに時間がかかると思ったので就職を選びました。

私は人と接することが苦手なのでサービス業は向いていないと思い、製造業の求人票を中心に見ることにしました。製造といっても会社によって造っているものが全然違っていたので、色々な求人票を見て、自分がよく目にするものや興味のあるものを造っている会社を選びました。

私が選んだ会社は面接だけではなく、筆記試験（一般常識・国語）がありました。面接は得意なほうではなかったので、友達や先生方に何度も練習に付き合っていただきました。筆記試験は、本を使って時事問題や漢字の見直しなどをして色々なことを覚えるようにしました。

就職に関わらず、高校生活で気をつけていたことは、休まずに登校することです。欠席日数が進路に響くと思っていたので、なるべく休まないようにしていました。勉強面では赤点を取らないように気をつけていました。テスト前は、対策プリントを何度も解いて理解できる問題を少しずつ増やしていくようにしました。生活面では、客観的に見て悪いと思われるような行動をしないように心がけていました。

日頃から心がけて行っていることや気をつけていること、普段の生活が進路活動に影響していくと思います。迷ったり悩んだりする時は人に頼ることが大切です。就職か進学かを決めるときもそうですが、周りの人の意見を聞き、自分の性格や向いていることを理解することも大切だと思います。

将来に向けて

22A
新妻　大輝
日本大学
工学部情報工学科
合格

私が進路を意識し始めたのは、三年生の春頃です。二年生の終わりに担任の先生と進路について相談をした際に、どの大学に進学したいかを絞り、その後、自分に合った入試方式や必要な科目を決めました。将来の方向性が明確になったので、進路選択に対する意識が強くなりました。

進学を選んだ理由は、私はずっと「人や社会の役に立ちたい」と考えていたからです。どうすれば自分の強みを生かして社会貢献できるかを真剣に考えた結果、自分の好きな分野を深く学び、それを通じて社会に貢献する道が一番自分に合っていると感じました。そのため、専門的な知識を身につけ、社会に役立つ仕事に就くことを目指して、大学進学を決意しました。自分の選んだ学びの分野で専門的な知識を深め、それを実践に活かすことで、社会貢献を果たしたいと考えました。

受験に向けて特に力を入れたのは、小論文と面接の練習です。私は公募推薦を受けることに決め、入試科目として小論文と面接がありました。まず小論文では、過去問を何度も解き、国語の先生に添削していただきながら、工夫しました。添削を受けた後は、その指摘を頭に入れながら過去問を解くという繰り返しで、十回程の練習をしました。面接については、先生方に協力をお願いし、模擬面接を何度も実施しました。最初は緊張してうまく話せませんでしたが、練習を重ねるうちに自信を持てるようになり、本番でも落ち着いて臨むことができました。

また、受験準備を進める中で、もし公募推薦で落ちた場合に備えて一般受験の勉強もしていました。受験科目が違ったため、日々の勉強の中で計画的に進めることが必要でした。

高校生活の中で心掛けていたことは、まず「字を丁寧に書くこと」と「コミュニケーションの際に目を合わせて話すこと」です。基本的なことは、三年生の春頃です。二年生の終わりに担任の先生と進路について相談をした際に、どの大学に進学したいかを絞り、その後、自分に合った入試方式や必要な科目を決めました。

自分の三年間

22A
松本　初樹
(福)葵会
内定

私が進路を具体的に意識しだしたのは、三年生になってからです。三年生になるまではまだ自分が社会人になる実感がほとんどわかず三年生になり、自分はあと一年で社会人なんだと気づき、自分から積極的に進路について考えることが多くなっていきました。

まず私が介護職を選んだ理由は二つあります。一つめは、誰かの役に立てて感謝される職業につきたいと思っていたからです。二つめは、日本は今少子高齢化社会で、これからもっと介護が必要な人が増えていくと思うし、少しでも世の中のためになりたいなと思ったのが主なきっかけです。私がなぜこの就職先を選んだかと言うと、職員の方々や利用者様達がみんなのように感じるかもしれませんが、普段から意識して実践することで小論文を書くときや面接を受ける際、字が丁寧であることで印象が良くなったと思います。面接ではしっかりと目を合わせて話すことで、相手に自分の意志や考えをしっかりと伝えることができました。普段から基本的なことに気を配ることが、受験においても重要であることを実感しました。

受験勉強は決して楽なものではありませんでしたが、計画的に準備して、一つ一つ丁寧に課題をこなすことが重要だと思いました。

笑顔でアットホームな雰囲気を感じたからです。

私が受験に向けて頑張ったことは、介護の勉強です。夏休み前に先生に「介護職員初任者研修を受けてみたら」と言われ、それから介護の勉強を始めました。夏休みの大半を使い資格を取るのは大変だったし、勉強も今まで知らなかったことを沢山習ったので大変だったけど、今では受けてよかったし、いい経験になったなと思います。

私が高校生活で努力したことは二つあります。一つめは出席です。理由は三年生になるまでは、出席の重要さをあまり理解出来ていなかったけど、三年生になり就職のことを意識し始め、だんだんと出席の大事さに気づき、出席するようになりました。二つめは、コミュニケーション能力の向上です。元々あまり喋るのは得意ではなかったので、それを社会に出るまでに変えたいなと思ったのがきっかけです。最初はどうすれば良いか分からなかったけど、だんだんと自然と喋れるようになり、それと共に友達も増えていきました。この学校生活で努力したおかげで就職試験では出席日数のことで褒められ、面接でもしっかり受け答えをすることが出来ました。

最後に在校生にアドバイスです。いくら面倒臭くても学校には行った方がいいです。出席するだけで色々なことが身についたり、行っているうちに楽しみも増えたりしてくると思います。自分が三年生になった時後悔しないような学校生活を送りましょう。

めちゃくちゃ頑張った就職活動

22B
細矢　優太
古藤工業(株)
内定

私が就職に向けて頑張ったことは、自分から行動して履歴書に書ける実績を残すことでした。例えばホームルーム長などをやっておくと、面接などで有利になります。面倒くさい仕事と思われがちですが、意外にやることはなかったです。

次に就職活動で頑張ったことは、就職先を決めることです。自分がやってみたい仕事やこれなら三年続けられると思える仕事、給料が多いとこ、休みが多いとこなどをみて先生に相談すると、すぐに決まります。就職先が決まれば、次はその職場のことを自分でよく調べることです。いろいろ調べることによって、職場見学にいった時や面接などで質問された時に焦らず答えられます。

私は進路について先生と話をする時、どうしても周りに自分の悩みなどを話せず一人で抱え込んでしまい、体を壊してしまう時がありました。ですが先生や友達が話を聞いてくれて、だんだんとストレスや悩みなどから解放されていき、本音も人に話せるようになりました。たとえ本音を話せなくても、好きな音楽を聴いたり、ゲームしたり、趣味を楽しむことなどでメンタルに余裕をもたせると楽になります。

趣味でお金などが必要になったら小遣いやお年玉などに頼るのではなく、バイトなどを始めてお金を貯めましょう。バイトは知らない人と話すので、自然とコミュニケーション能力がつきます。社会経験を積むことができるので自分のためになります。

就職活動が終わったあと、悩みが一つ減った気がしました。今まで頑張ってきたことをなんとかやり遂げることができて、頑張ってきて本当によかったと思えました。

私の夢

22B
渡邉きらり
いわき短期大学
子ども未来科
合格

私は、いわき短期大学を受験しました。

私が、いわき短期大学を選んだきっかけは二つあります。

一つ目は、小学生の頃から子どもが好きで保育の仕事に興味があり、保育の現場体験などを通し、子どもたちと一緒に様々なことを学びたい、楽しませてあげたいという想いが強くなったのがきっかけです。

二つ目は、子どもたちを笑顔に出来る保育士、幼稚園教諭になりたいと思ったからです。そのために、子どもに関することや子どもの心理発達、子どもに関わる上で大切なことなど、いわき短期大学で学びたいと思ったからです。

私が進路を意識し始めたのは、高二の終わり頃です。進路は将来に関わってくるからこそ、勉強面や生活面など色々な準備が必要だと思ったのと、三年生になってからだと焦りや不安が大きくなってしまうと思ったから少しでも落ちついて出来るよう意識し始めました。

私は、指定校推薦で受験しました。指定校推薦には、小論文と面接があり、小論文は作文とは少し違うため、私は夏休みから対策を始めました。始めは、書き方も何もわからなく苦戦することが多かったけど、とりあえず保育系の小論文の過去問を何度も書き、担当の先生にチェックしていただいたり、アドバイスをいただいたりしたおかげでコツを掴むことができました。面接練習では、いわき短期大学に行った先輩にどんなことを聞かれたか自分から聞いたり、先生方と面接練習をしたりしました。始めは上手くいかなかったけど、諦めず何度も練習をし、頑張ることができました。高校生活で努力したことは、自分らしさをつらぬいたことです。この三年間で良いことも悪いことも経験し、自分を見直し、自分らしさを出すことの大切さに気づけました。

最後に在校生へ。学校生活を送る上で楽しいことだけじゃなく、辛いこともあるけど、将来やりたいこと、夢がある人は諦めず自分に自信を持つことが大事だと私は思います。進路で迷うことがあったら一人で抱え込まず、誰かに相談してみるのもいいと思います。応援してくれる人は絶対いるから最後まで諦めず頑張ってください。

頑張った高校生活と受験

20E
佐藤　海斗
テクノアカデミー浜
自動車整備科
合格

私が、テクノアカデミー浜の自動車整備科への受験を意識しはじめたのは、四年次の二学期くらいです。それまでは、調理師を志望し、日本調理技術専門学校を志望していました。私は元々、料理をするのが好きで、「おいしい」と言ってもらえることをうれしく思っていました。しかし、それは家庭でもできると考えるようになりました。そこで、同じくらい好きだった自動車を仕事にしたいと考えました。

テクノアカデミー浜は金銭的に負担が少ないのが一番の魅力です。また、おもてなしの心をもって接客する力を身につけられるというところに惹かれました。

受験に向けて頑張ったのは、とにかく学校生活を大切にし、欠席をしないことです。五年次の一学期は、皆勤で学校に出席することができました。また、夏季休暇に学校に来て、願書などの書類をまとめるのがとても大変でした。夏季休暇が終わった後も、早く来て面接の練習を多く行いました。面接の想定質問を事前にもらい、家でも面接の質問への答えを考えるなど、毎日、忙しい日々を送りました。

高校生活では、遅刻や早退をしないよう、時間に気を付けて行動するようにしていました。前述したように、面接の練習を、多くの先生と行いました。練習に遅れるのは失礼にあたるので、遅刻等をせず時間通りに行いました。そういった練習を重ねることで、当日の受験で過度に緊張することがなかったです。リラックスした雰囲気で本番に臨むことができました。たくさん面接の練習を行うことがとても大事だと思います。

在校生のみなさんへのアドバイスですが、無理はせずに適度に頑張ってほしいと思います。思い詰めすぎず周りの先生などに相談するようにしてほしいです。また、面接は、面接官の目を見て質問に答えることが大切だと思います。みなさん頑張ってください。